

宇治茶歴史街道 文化的景観の 茶畑の道

木津川市・和東町

「文化的景観の茶畑の道」は、京都府選定文化的景観に選定された「和東町の宇治茶の茶畑景観」を巡り、紺碧の空と茶樹が織りなすコントラストの美しさを楽しむ道です。

「恭仁宮跡」「海住山寺」「安積親王陵墓」など、街道付近には、歴史と文化がただよみます。和東町のお茶の始まり、それは、鎌倉時代までさかのぼります。海住山寺の高僧慈心上人が、茶業興隆の祖とされる梶尾の明恵上人より、茶の種子の分与を受け、鷲峰山山麓に栽培したのが始まりと言われています。江戸時代には皇室領となり、京都御所にも納められていました。

「石寺の茶畑」「原山の茶畑」「恭仁宮跡」「海住山寺」「安積親王陵墓」…「文化的景観の茶畑の道」は、先人が苦勞して作りあげてきた日本の農村風景そのものです。あなたも、美しい茶畑景観を愛でながら、美味しいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



宇治茶の郷づくり協議会



和東町の宇治茶の茶畑景観

山城地域東南部は山がちな地形で、各所に山裾から山頂近くまで、丘陵の起伏に沿って茶畑が広がっています。

和東町は、山吹色に輝く煎茶の主産地です。町の中心を和東川が東西に流れ、寒暖の差が朝霧を生み「こく」のある茶葉を育みます。

平成20年 3月21日、この茶畑の眺望風景

が山城地域を代表する生業景観として、京都府選定文化的景観に選定されました。

※京都府選定文化的景観とは、「地域における人々の生活、生業、風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」として、京都府景観条例により選定されたものです。

美味しいお茶の淹れ方

煎茶 覆いをしない茶園（露天園）の新芽をつんで蒸した後、採みながら乾燥させてつくります。さわやかな香りと上品な渋みのある味わいです。日本で一番多く飲まれているお茶です。

- 沸騰したお湯180ccを3人分(60cc)に分けて茶碗に注ぎ、約70度～80度になるまで冷まします。(温度を下げたいときは湯冷まし又は、マグカップを使って冷まします)
温度は器を移すたびに、約5度～10度、さがります。
※1人分の場合はお湯 60cc
- 急須に茶葉を大きじ山盛り2杯程度、10g入れます。
※1人分の場合は茶葉 5g
- 湯冷ました茶碗のお湯約 70度～80度を急須に入れます。



- ◀用意するもの (3人分)
◎急須・茶碗
◎大きじ又は、計量スプーン

4 ふたをして茶葉の浸出を待ちます。急須の中で、茶葉がお湯を吸って、黄緑色に変化してゆきます。出し頃は45秒～1分位です。

5 お茶を急須から茶碗に回し注ぎをして、濃さが均一になるようにします。最後の一滴まで絞りきってください。二煎目以降は、お湯の温度を少し上げて待つ時間を短くし、絞りきってください。



できあがり



石寺の茶畑

山城地域は、お茶に関わる歴史的な史跡や行事・習慣が多く、お茶の文化が日常的に息づいている地域です。

この特性を活かし、茶園、施設、歴史、文化、人など、宇治茶に係る資源や取組などを紹介する「宇治茶歴史街道」を設定しました。



交通案内

◎JR西日本お客様センター
☎0570-00-2486
☎078-382-8686
<http://www.jr-odekake.net/>



◎奈良交通バス案内
☎0774-23-3511 (京都営業所)
<http://www.narakotsu.co.jp/m/>



お問い合わせ先

- ◎(公社)京都府茶業会議所 ☎0774-23-7713
- ◎京都府茶協同組合 ☎0774-23-7711
- ◎京都府山城広域振興局 ☎0774-21-3229
- ◎木津川市農政課 ☎0774-75-1220
- ◎木津川市観光商工課 ☎0774-75-1216
- ◎(一社)木津川市観光協会 ☎0774-73-8191
- ◎NPO法人ふるさと案内・かも ☎0774-76-3989
- ◎和東町農村振興課 ☎0774-78-3001 (代)
- ◎和東町雇用促進協議会 (和東・茶源郷ガイドの会) ☎0774-78-4181

発行：宇治茶の郷づくり協議会 / 事務局：(公社)京都府茶業会議所内
宇治市宇治折居 25-2 ☎0774-23-7713

(平成27年4月発行)

1 恭仁宮大極殿跡

天平12年(740)、聖武天皇は、疫病や戦乱に見舞われ、社会不安が全国的に高まっていた事態を一新するため、都を平城京から山背国相楽郡恭仁宮に遷都しました。恭仁宮は、それまでの都比へ規模も小さく、わずか数年の短命な都でしたが、この間、諸国に国分寺・国分尼寺建立を命じたり、聖田永年私財法など重要な政策を行い、日本の中心としてその役割を果たしました。



2 山城国分寺跡

天平17年(745)、恭仁宮から難波に都が遷されると、翌天平18年(746)、宮跡の中心部分は、当時全国的に進められていた国分寺建立の動きに合わせて、「山背国分寺」として生まれ変わるようになりました。国分寺は東西約275m、南北約330mという広い伽藍を持っていました。かつての大極殿は金堂として再利用され、新たに七重塔が造営されました。



3 大井手用水路

貞応元年(1222)海住山寺二世慈心上人は、瓶原の住民が水不足で苦労しているのを見て、和束川から水を引く大井手用水路の建設を計画し、二十余年の歳月を費やして完成させました。その延長は6,759mに及んでおり、このおかげで米の収穫量が大幅に増え、今も瓶原一帯を潤しています。



4 海住山寺

天平7年(735)、聖武天皇の勅願により、東大寺の良弁僧正が開創したと伝えられています。山上の伽藍は貞慶が復興してからのもので、本堂の傍らにそびえる五重塔は、山並みに映える鎌倉時代の傑作で、国宝に指定されています。また、鎌倉時代に、同寺の慈心上人が、桐尾から茶の種子の分与を受け、鷲峰山山麓に栽培したのがこの地のお茶の発祥とされています。



5 和束の茶畑 (石寺)

春、和束の町は西から東へと順に暖かくなり、西に位置するこの地域は「早場(はやば)」と呼ばれ、4月下旬には早くも茶摘みが始まります。近代的な農園整備がなされ、空まで続く茶畑が見られます。



6 和束の茶畑 (撰原)

和束の茶畑は、川沿いから見上げるだけでは想像がつかないほど、急傾斜の山の上にも広がります。この地域では傾斜に合わせて、パッチワークのように繊細に畝が巡らされ、まさに「山畑」と言えます。



7 天空カフェ

京都府内産木材を使った施設で、和束茶を飲みながら、和束町の景観を眺め、ゆっくりとした時間をすごしてもらえる「ホッと一息」スポットとして平成24年4月オープン。和束運動公園駐車場を利用可。
◎利用時間 10:00～17:00(日曜日のみ 9:00～17:00) ◎無休(年末年始を除く)



8 グリントイ和束 石碑「宇治茶の郷」

グリントイ和束は、和束町の農業振興の拠点として、また、住民が広く交流する施設として設置され、現在は純粋な和束茶が楽しめる「和束茶カフェ」を併設しています。
☆和束茶カフェ ◎営業時間 10:00～17:00(日曜日のみ 9:00～17:00) ☎0774-78-4180



9 安積親王陵墓

安積親王は聖武天皇の第五皇子で、744年17歳で死去。平城京・恭仁宮と紫香楽宮とを結ぶ街道を愛した皇子のために、この地を陵墓として葬られたと伝えられています。別名太鼓山とも呼ばれ、茶畑に囲まれた陵墓から眺める風景も絶景です。



10 和束の茶畑 (釜塚)

釜塚山の茶畑は、傾斜地を先人がすべて手鋸で開墾し、掘げたものです。茶畑と、住まいする民家が隣合わせにある独特の景観は、和束が誇る「生業の景観」です。



11 八坂の大杉

樹齢1300年以上と言われる、幹周り12.8m、高さ31mの北山杉。昔、本幹が倒壊し、枝木の8本が株を一つにして巨木となったと伝わっています。町内に同一品種は見当たらず誰がこの地に植えたかは謎。京都府の天然記念物に指定されています。



12 中尾園茶舗 茶房 竹の子

和束町で採れた摘みたての宇治茶や抹茶、宇治田原の玉露を自分で淹れて飲むことができます。また、宇治茶のスイーツや食事を楽しめ、テラスからは、一面に広がる茶畑を一望できます。
☎0774-78-3630
◎営業時間 8:30～17:00 ※年中無休



13 和束の茶畑 (原山)

和束町に初めてお茶の木が植えられたのは鎌倉時代、原山と伝わります。数ある茶産地の中で、収穫と手入れのために一年を通して最も多く鋏を入れる和束の茶畑は、ときに芸術的な光景を見せてくれます。

